

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウェルフェア		
事業所名	グループホーム 大原苑 (2棟)		
所在地	〒838-0142 福岡県小郡市大板井391番地36	0942-73-1218	
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果確定日	平成27年12月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年12月10日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設11年目になり、入居者の中でも7～8年目の方が4名、その他の方も5.4.3年と長く大原苑で生活されています。職員の離職率は低く開設当時から働いている者も多くなります。そんな顔馴染みの家庭的な雰囲気の中で、毎日穏やかで安心して生活出来るように利用者に寄り添う介護を心がけています。また毎日のレクリエーションと、下肢筋力が衰えないように廊下歩行や体操など一人一人に合ったりハピリ等もして頂いています。年間の行事の他に、気候が良い時は近隣の散歩、外出や外食等の機会も出来るだけしています。また、毎月の保育園との交流会は利用者にとって、楽しみな時間で心が癒される大切な時間だと思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんどない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や食堂のよく見える場所に理念を貼って毎日実践している。ミーティング時には全員で声に出し唱和し実践出来ているかの確認をしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入しており、地域の清掃活動には職員が交代で参加している。地域の行事にも出来る限り利用者・職員で参加している。天気の良い日は苑の周りを散歩し地域の方と挨拶を通して交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の希望があれば随時対応している。電話での相談にも応じている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で苑の状況報告をしている。各分野の運営推進委員の意見や情報も取り入れサービス向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険課、地域包括支援センターと連携しわからないことは細かく尋ねています。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず見守りを強化して対応している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるがやむを得ず必要となった場合は家族と話し合い同意を得ている。身体拘束に代わる方法も検討して見直しもしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の態度や言葉使いには細かく注意を払いみている。高齢者の虐待防止については職員の研修会や資料を回覧し職員全員が同じ意識を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市介護保険課の研修に参加して職員全員に申し送り、資料を回覧で回して利用者に対して必要性が感じられる時に検討するようにしている。家族会で成年後見制度の説明を行い、家族の理解や関心を深めてもらっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得のいくように説明を行ってから署名、押印してもらっている。介護保険の改正時や加算変更時など、その都度文章を出し随時説明を行い署名、押印してもらっている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えた時に家族の意見を聞いたりご意見箱も設置し、出来るものは改善したり検討する旨話したりしている。市役所への相談もあっている所以对処行っている。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一年に一回、代表者と職員の個人面談を行っている。管理者は職員の必要な相談はいつでも聞ける体制にして相談があれば助言したりみんなで話し合ったり代表者に届けたりしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の色々な要望を聞いた上で、色々な要望に対して検討してもらっている。職員の研修や受講の援助もある。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。働く職員についても、休暇希望を取り入れて仕事の都合がつくよう配慮している。職員に対して平等に接してくれている。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する尊厳の思いはいつも意識しているように申し送っている。ミーティング時に理念として唱和している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容は確認しレベルアップの為に参加している。月1回のミーティングにて勉強会も行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域の勉強会を通して交流を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の慣れない不安な状態を緩和するような気配りし、側にいて見守り、会話を心得、本人の気持ちを理解しようとしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、入居申し込みの段階から家族の悩み、希望を聞き苑で出来る事を説明し関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時点では家族の疲労が強く本人としては納得いかななくても家族の休養、安心を考えながらも本人を不安な状態にさせないように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族には本人を安心して預けられる場所としての思いを持ってもらい慣れ親だ家を離れる本人の寂しさを緩和する為の援助を協力してもらおうようお願いしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の生活、変化を説明して家族の意向を確認したりしている。毎月大原苑ニュースなど郵送している。ケアプラン更新時にも電話で希望を聞いたりと連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人の希望にそえるよう家族や友人との面会や外出をはじめ年賀状や電話などで交流を図れるようにしている。</p>		
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者全員で参加出来るレクリエーションや行事を行ったり、孤立しないよう常に見守りし楽しく時間を過ごせるよう努めている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退苑後の情報提供や他の施設へ入られた場合には面会等行っている。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりに丁寧に関わり希望や思いにそえるよう努めている。思いを伝えたり、聞き出す事が困難な場合は表情や仕草、家族からの情報で判断し対応するようになっている</p>		
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族よりこれまでの生活歴などの情報を収集し、安心して暮らして頂けるよう環境作りに努めている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日常生活の中で1日の流れを把握し毎日の個人記録で情報を共有している。現状に変化があればミーティングなどで今後の関わり方について話し合っている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族から意見を聞くと共に職員でカンファレンスを行い、利用者の意向に沿った介護計画を作成している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人との会話や態度から本人の意図や異変を感知し記録している。ケアプランやケアアタッチェク表を参考に実践を行い個人記録等にて見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体に危険のない範囲で本人の意志を尊重し、本人や家族の希望をできるだけ取り入れている。職員が付き添い、買い物に個人的に行ったり部屋で一人で過ごしたり目が離せない方は職員が一人付き添って過ごす対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる餅つき、そうめん流し等の行事へ希望者を連れ参加すると知り合いの方との交流を喜ばれる。保育園児との交流が月2回以上あったり、保育園の運動会や花見などの行事へも参加して楽しまれている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望される病院を受診してもらっている。往診を希望される方は状態や薬の変更等を家族へ連絡している。精神科受診は家族と職員が同行して対応している。歯科受診も希望で受けられてる。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変時は看護師へ報告し見てもらったり指示を仰いだりしている。病院へ連絡してもらったり、病院との連携にたずさわってもらっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な状態の時は家族、主治医と三者で話し合い治療方法や期間等家族納得のもと行っている。入院中は面会へ行き、様子を見たり病院相談員に経過を聞いたりしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明をしサインをもらっている。その方の経過を見ながら主治医や家族と相談しどうするか決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防火訓練と共に応急処置の訓練を行っている。定期的な訓練をすることでもしもの時に落ち着いた適切な対応ができるようにしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者、職員全員で年2回避難訓練を行っている。消防や地域の方の協力も呼び掛け実践している。災害時の為の食糧など常備している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士常に気を付け尊重し言葉使いにも注意しながら対応している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御一人々の思いを傾聴し思いや希望を尊重し、安心して暮らして頂けるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御一人々の希望やペースに合わせて支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時は服装を考えて支援している。様子を見て訪問理容を皆様利用されている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みなど希望を聞き取り入れている。時には野菜の皮むき等、調理のお手伝いをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の皆様食欲はあり完食されているが、水分摂取となると、数名の方がトイレの事を気にして、あまり水分を飲まれない人がいるので、声掛けし少しでも多く水分を摂ってもらうように心掛けている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の皆様に口腔ケアをしてもらい、義歯装着している方には、夜は固形の洗浄剤につけて、朝に水で洗い流し装着している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導している。訴えがあればその都度、訴えない方も時間を見計らい誘導している。そうすることで習慣つき尿失禁も減っている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	皆様ほとんど毎日排便が出ている。もし排便がなかった方には、便秘の体操を取り入れたり、水分を少しでも多く飲んでもらうようにしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月水金の午前中と曜日や時間は決まっているが、その中で時間帯や順番など一人一人の希望やタイミングにあわせ入浴を楽しんでもらえるように支援している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの一日の生活パターンがあるので、その人に合わせて休んでもらっている。が、なかには昼夜逆転される方がいらっしゃるの、その方に対しては、昼間は声掛けし起きてもらい夜間ぐっすり寝てもらっている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の一人ひとりの内服薬を理解し、その人に合った服薬の方法で行っている。状態の変化等がある時には、他の職員や主任、看護師へ連絡し連携して情報交換や指示された事を務めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事趣味のあることを職員が理解し、やる気が起きるよう支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩や苑外での行事を含めできるだけ外出ができるよう努めている。家族にも協力してもらい、普段は行けないような場所でも出かけられる様に支援している。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や必要に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望があれば電話を使用できる様に支援している。年賀・暑中見舞いも、本人の自筆を入れて家族に出す支援をしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、洗面所は各居室にあり、共用の空間は、その季節の飾り物をしたり、テレビ、音楽の音にも配慮している。廊下にも行事で取った写真などを飾っている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座る場所も相性を考え居心地の良い空間を作るよう努めている。ソファも自由に使えるように置いている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の部屋は家族と相談しながら馴染みのものを置いたり、好みのものを活かし、居心地良く過ごせるようにしている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの自助具を利用しながらできること自力でされ、それ以外は職員の手助けを受けながら行動されている。		